

令和5年9月22日

浦添市議会議長 殿

建設委員会  
委員長 護得久 朝文

### 建設委員会視察報告書

令和5年7月5日から令和5年7月7日まで、委員会視察を実施いたしましたので、下記のとおり報告します。

#### 記

- |         |   |
|---------|---|
| 1 視察期間  | 令和5年7月5日（水）～令和5年7月7日（金）                       |
| 2 視察場所  | 福岡県福岡市 福岡県久留米市                                |
| 3 視察項目  | 九州大学箱崎キャンパス跡地のまちづくりについて<br>久留米市中央公園整備運営事業について |
| 4 視察参加者 | 護得久 朝文 松下 美智子<br>下地 恵典 儀間 光秀                  |
| 5 調査内容  | 別紙のとおり  |

視察日	令和5年7月6日(木)
視察先	福岡県福岡市 人口 1,638,738 人 (令和5年6月1日現在) 市面積 343 km <sup>2</sup> 議員定数 62 人
視察市の概要	
福岡市は、人口163万人を超える大都市だが、都心部から30分あれば、海、山の自然に触れることができ、都市的景観と身近な自然が程良く調和したヒューマンスケールの街。東アジアのほぼ中央にあり、釜山、ソウル、上海、北京、台北などの東アジアの主要都市が大阪、東京、札幌までの距離とほぼ同じ範囲内にあるため、国際線の定期航空路線も多く、日本国内だけでなく韓国、中国をはじめ、アジア諸国との交流には最適の位置にある。	
調査項目	
九州大学箱崎キャンパス跡地のまちづくりについて	
調査理由	
九州大学箱崎キャンパス跡地のまちづくりについて、都市計画道路の整備や「FUKUOKA Smart EAST」の考えを取り入れたランドデザインの策定などを学び、本市のまちづくりの参考とするため視察を行った。	
調査内容	
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 九州大学箱崎キャンパス跡地のまちづくりの概要について</li> <li>(2) FUKUOKA Smart EASTについて</li> <li>(3) 今後の課題等について</li> </ul>	
考察	
<p>・九州大学箱崎キャンパス跡地のまちづくりについて、大正から昭和初期の建物が分散していたので箱崎キャンパスと六本松キャンパスを伊都キャンパスに集約されるため、箱崎キャンパス跡地に新しいまちづくりを展開。約43haの広大な地域を約8年かけて構想を作り上げ、FUKUOKA Smart EASTとして完成させていく工程をわかりやすく説明していただいた。社会課題を解決する最先端技術の実証実験も継続して取り組まれていました。今後、浦添市としても取り入れられるものは参考にしていきたい。</p> <p>・これからの日本は、人口減少、少子高齢化、エネルギー・環境問題など様々な社会課題に直面すると言われています。例えば、2036年には3人に1人が高齢者になり、社会に影響を与えることが予測されるほか、少子化による労働力不足も懸念されています。日常生活のいろいろな場面でテクノロジーが普及していますが、一方でサイバーセキュリティの脅威や災害時などのエネルギーや通信のバックアップの重要性がより増していきます。箱崎のまちづくり最先端の技術革新の導入による未来に誇れるモデル都市まちづくりを視察しました。AI（人工知能）やロボットによる自動化によって、人間が運転していた車が自動運転車になったり、画質や音質が飛躍的に進歩した通信によって、遠隔診療が可能になったりすることが挙げられた。方針として、九州大学が存在した地としてのブランドと広大な敷地や交通といった強みを活かし、イノベーションを生み出す新たな拠点を創出。箱崎の歴史・文化も踏まえながらイノベーションを生み出すチャレンジできるまちと、高質で快適なライフスタイルを実現するまちを創出していきたい。</p>	



視察日	令和5年7月6日(木)
視察先	福岡県久留米市 人口 301,612人 (令和5年4月1日現在) 市面積 229.96km <sup>2</sup> 議員定数 36人
視察市の概要	久留米市は、九州の北部、福岡県南西部に位置し、九州の中心都市である福岡市から約40キロメートルの距離にある。市域は東西32.27キロメートル、南北15.99キロメートルと東西に長い形状を示し、行政面積は229.96平方キロメートル。また、県南部の中核都市で、九州自動車道と大分・長崎自動車道のクロスポイントにも近く、国道3号ほか5つの国道が通っていて、交通の要衝となっている。
調査項目	久留米市中央公園整備運営事業について
調査理由	Park-PFIを活用した公園に関する管理運営方法を学習するため。市民・行政・民間での公園のにぎわい創出が重要となってくることを考え、視察を行った。
調査内容	(1) 久留米市中央公園の概要について (2) 久留米市中央公園整備運営事業について (3) 久留米市中央公園整備運営事業で見込まれる効果について (4) 今後の課題等について
考察	・中央公園官民連携魅力創出事業(Park-PFI)について、「水緑花(みりょくか)都市くるめ」のネーミングに惹かれました。現場視察もさせていただき、魅力的な取り組みだった。 ・「百年公園周辺エリア」の「中央公園」において市初となるPark-PFIを活用した施設木造平屋建のカフェ・ライフスタジオ(ヨガ、セミナー、ワークショップなどの多目的スペース)屋内、屋外休憩スペース、フリースペースを備える。施設内を視察させていただいたが、気軽に入れて木の温もりを感じ、癒される空間で居心地が良かった。

